

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	一般財団法人 住友生命福祉文化財団	
施 設 名	いずみホール	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	26,928	(千円)
公 演 事 業	23,914	(千円)
人 材 養 成 事 業	327	(千円)
普 及 啓 発 事 業	2,687	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	バッハ・オルガン作品全 曲演奏会⑬	2018年10月6日	曲目/J.S.バッハ：プレリュードとフー ガイ短調 他 出演/バリント・カロシ、伊東辰彦（お 話）	目標値	550
		いずみホール		実績値	668
2	ランチタイム・コンサ ート 藤原道山	2018年10月16日	曲目/都山流本曲：鶴の巣籠 他 出演/藤原道山、岡田暁生（企画構成、 お話）他	目標値	680
		いずみホール		実績値	740
3	バロック企画① レク チャーコンサート	2018年11月2日	曲目/アルカデルト：真白で優しい白鳥 は 他 出演/カペラ・デ・ラ・トーレ、市川克 明（お話）他	目標値	460
		いずみホール		実績値	447
4	バロック企画② 「聖母 マリアの夕べの祈り」	2018年11月7日	曲目/モンテヴェルディ：《聖母マリア の夕べの祈り》 出演/RIAS室内合唱団、カペラ・デ・ ラ・トーレ 他	目標値	570
		いずみホール		実績値	749
5	バロック企画③「スペイ ン再発見」	2018年11月11日	曲目/ファミ・アルカイ：ジョスカン 「はかりしれぬ悲しさ」によるグロサ 他 出演/ファミ・アルカイ 他	目標値	460
		いずみホール		実績値	381
6	バロック企画④「バッハ とそれ以前の時代」	2018年12月20日	曲目/スウェーリンク：半音階的幻想曲 他 出演/アンドレアス・シュタイアー	目標値	530
		いずみホール		実績値	437
7	クリスマス・コンサート	2018年12月25日	曲目/アンダーソン：クリスマス・フェ スティバル 他 出演/牧村邦彦、Osaka Shion Wind Orchestra、ロザン	目標値	616
		いずみホール		実績値	527
8	バロック企画⑤オペラ 「ポッペアの戴冠」	2019年1月19日	演目/モンテヴェルディ：オペラ《ポッ ペアの戴冠》 出演/望月哲也（ネローネ）、阿部雅子 （ポッペア） 他	目標値	616
		いずみホール		実績値	613
9	いずみシンフォニエッタ 大阪 室内楽	2019年2月10日	曲目/シューベルト：八重奏曲へ長調 D.803 他 出演/ライナー・ホーネック、いずみシ ンフォニエッタ大阪	目標値	530
		いずみホール		実績値	519
10	いずみシンフォニエッタ 大阪 第41回定期演奏 会	2019年3月1日	曲目/リゲティ：ヴァイオリン協奏曲 他 出演/飯森範親（指揮）、神尾真由子、 いずみシンフォニエッタ大阪	目標値	460
		いずみホール		実績値	651
11	バッハ・オルガン作品全 曲演奏会⑭	2019年3月21日	曲目/J.S.バッハ：ファンタジーとフー ガ ハ短調 他 出演/ウルリヒ・ベーメ、クリストフ・ ヴォルフ（お話）	目標値	570
		いずみホール		実績値	754
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	6,042
				実績値	6,486

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アートマネジメント講座 「ファンづくりのイロハ」	6/22、7/20、9/13、10/6	講座1「発想のイロハ」2「コミュニケーションのイロハ」3「つながりのイロハ」4オルガン特別講座 講師：田口幹也城崎国際アートセンター館長他	目標値	100
		住友クラブ、いずみホール		実績値	159
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	100
				実績値	159

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	いずみ子どもカレッジ	2018年8月10日	ワークショップ、曲目/「トトのうた」他 講師/P. A. N. Klang、小味渕彦之	目標値	40
		大阪府立男女共同参画・青少年センター		実績値	71
2	夢コンサート	2018年10月24日	曲目/ドヴォルザーク：交響曲第8番ト長調 他 出演/藤岡幸夫、関西フィルハーモニー管弦楽団	目標値	650
		いずみホール		実績値	617
3	いずみホール音楽講座	2019年1月30日	曲目/メシアン：イエスの永遠性への賛歌 他 出演/西村 朗（お話）、いずみシンフォニエッタ大阪メンバー	目標値	600
		いずみホール		実績値	679
4	ヴォルフ講演会	2019年3月22日	講演「バッハの生涯におけるオルガンー新しく見えてきた世界」講師：クリストフ・ヴォルフ、演奏：富田一樹（オルガン）	目標値	400
		いずみホール		実績値	579
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,690
				実績値	1,946

【妥当性】

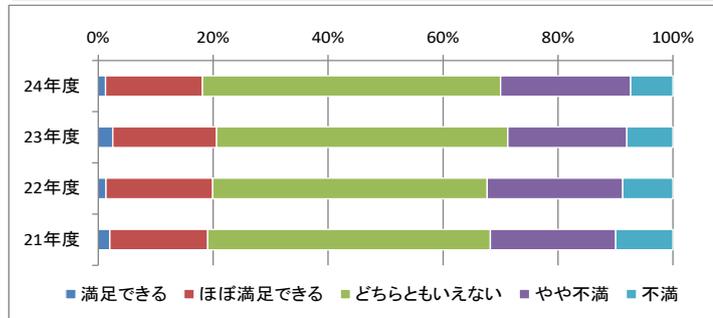
自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

いずみホールが掲げているミッションは「地域とのつながり」「世界とのドア」の2つである。平成30年度の公演、人材、普及啓発の全16事業をこの2つの視点から分類すると「地域とのつながり」9事業（いずみシンフォニエッタ大阪定期演奏会、アートマネジメント講座、いずみ子どもカレッジなど）、「世界とのドア」7事業（バッハ・オルガン全曲演奏会シリーズ、「古楽最前線」シリーズ）となり、バランスよく組み立てることができた。なかでも地域のニーズにあわせて力を入れた子育て世帯支援（ほぼ全ての公演で行っている青少年無料招待席制度、子ども向け事業、無料託児事業）は、「文化に親しみ、参加・表現する機会の充実」の満足度が現状で不十分である大阪府の子育て環境充実に、貢献することができた。全ての事業は予定どおり実施することができ、集客も3事業全てで目標をこえる実績値となった。

	Q3-12 文化に親しみ、参加・表現する機会の充実					計
	満足できる	ほぼ満足できる	どちらともいえない	やや不満	不満	
26年度	1.9%	16.9%	49.0%	22.4%	9.8%	100.0%
25年度	1.6%	15.8%	52.0%	22.2%	8.3%	100.0%
24年度	1.3%	16.9%	51.9%	22.6%	7.3%	100.0%
23年度	2.5%	18.0%	50.7%	20.7%	8.0%	100.0%
22年度	1.4%	18.6%	47.8%	23.6%	8.7%	100.0%
21年度	2.0%	17.0%	49.2%	21.8%	9.9%	100.0%

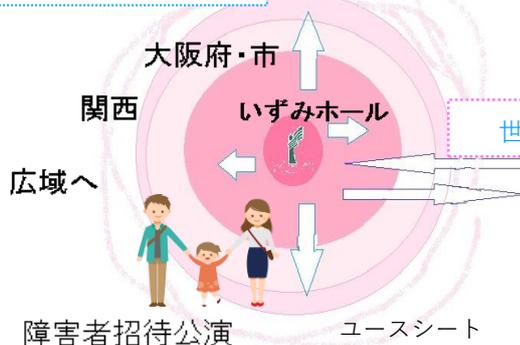
おおさかQネット「大阪の子育て環境」に関するアンケート分析結果概要より実施期間 平成27年2月3日から平成27年2月9日、回答者数 1,563名/2,285名（回答率：68.4%） 大阪府発表



助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

平成30年度末に主催公演開催は通算1000回を迎えた。当財団の事業計画では、長年にわたり培った音楽文化の発信力を高め、地域の音楽ファンからの高い支持、評価を維持していく旨の決意が述べられている。今後の活動の継続を保障するものである。この姿勢は「第4次大阪府文化振興計画重要業績評価指数」において大阪府がめざす「文化的環境の整備がされている」「芸術活動が活発になっている」と思う府民の割合を令和2年度に40%を目標とする方針にも合致している。また、大阪市は、いずみホール主催の平成30年度公演、普及啓発事業のうち、いずみシンフォニエッタ大阪関連の3事業を「大阪市芸術活動振興事業」に選んだ。地元からの期待と評価も高い。「世界とのドア」として海外より招聘、独自制作を行った「聖母マリアタベの祈り」公演はチケット販売数が目標をこえて完売、新聞紙上で関西のクラシック部門における「今年の収穫」の3本のうちの1本に選ばれるなど、広域においても経済的・文化的意義が認められた。

地域とのつながり



いずみホールミッション概念図



【有効性】

自己評価

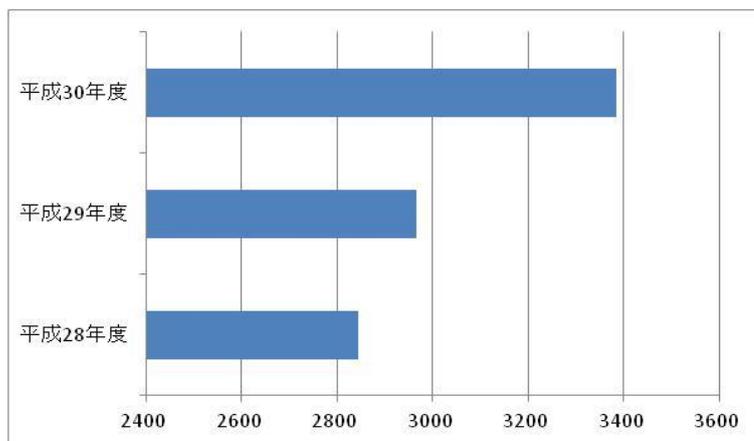
目標を達成したか。

公演事業・普及啓発事業のうち、有料公演の目標値はチケット売上額で設定した。全公演を完売目標とするのではなく、芸術性や将来性など、個々の公演の使命を勘案して数値を定めている。平成30年度の主催公演のチケット売上額は、対目標で97%の達成率となった。3%の未達ではあったが、チケット売り上げ枚数では対目標で99.8%とほぼ目標達成していることから、未達の主要因は拡充した会員向け割引販売であると考え（公演事業No.9「いずみシンフォニエッタ大阪室内楽」が事例）。拡充の理由は休館による顧客サービス対策であった。特殊条件下での売上結果としては目標達成と考える。これは全主催公演のデータであるが、平成30年度は「劇場音楽堂等機能強化推進事業」対象事業が全主催公演の約7割を占めたため、この結果はそのまま対象事業にも当てはまると考える。無料招待公演（普及啓発事業No.1,2,4）の目標は入場者数とし、No.1と4で入場者数の目標値を上回った。33名未達であったNo.2「夢コンサート」は身障者とサポーターを全席招待する企画であり、参加率は読みにくいものであった。チケット自体は予約満了したため、目標にほぼ到達としたと考える。人材養成事業（劇場・音楽堂等のスタッフ向けに開催した講座「ファンづくりのイロハ」）は知見の拡散をめざし、前年度の受講団体数（40団体）より応募数増加を目標とした。結果として関西圏内外から44の団体数の応募があり、前年度より目標を達成した。なお当講座は2年連続満席となっている。以上に加え、ホールからの発信力の度合いも指標と定め、ソーシャルネットワークサービスの成果をモニターした。公式ツイッターの年間インプレッション総数で年間目標160千回（前年度実績より61千回増）としたが当年度実績は1475220となり下回った。半年間休館の影響は大きかった。しかし1ツイートあたりの平均インプレッション数は前年度比419上がったので、引き続き、目標達成をめざしたい。

普及事業No.2 第16回 「夢コンサート」障がい者が参加する指揮者体験コーナー（2018年10月24日）
演奏：関西フィルハーモニー管弦楽団
撮影：樋川智昭



1ツイートあたりの
平均インプレッション数の変遷



インプレッション数

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
 アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

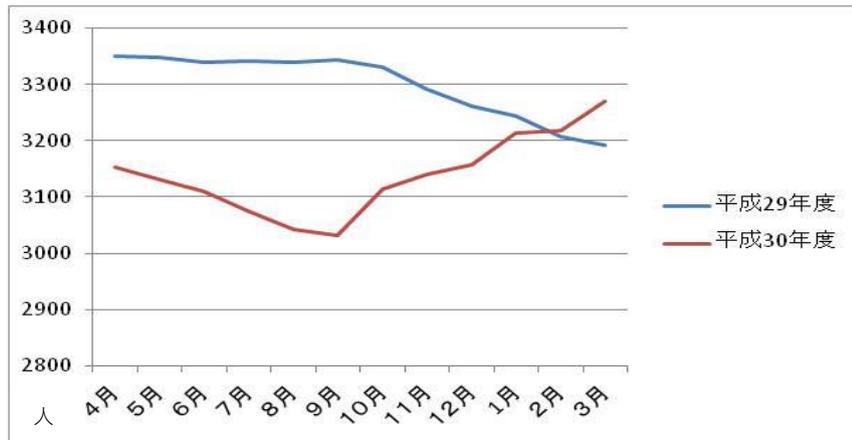
1. 事業期間

平成30年度のいずみホールは3月27日から9月30日までの半年間、改修工事のため休館した。そのため人材養成事業と普及事業の1つをホール外の施設で開催し、残りの事業は再開後の半年間に集中開催した。事業開催可能期間は半減したが、主催事業の本数は前年度比で約2/3を維持するなど、例年継続している主要事業が中断しないように工夫をした。そして計画どおりに全て実施できた。結果としては、有料公演の1公演あたり平均入場者数は前年度より45名増え、年会費2000円のホールフレンズ会員総数も、半年間の休館にもかかわらず減少分を取り戻す回復傾向を示し、聴衆からの支持の高さが見られた。休館による知名度低下、顧客離れが危惧された事態を、主催事業の集中開催で乗り切ったため、平成30年度の事業期間の設定としては適切であり成果をあげたと考える。

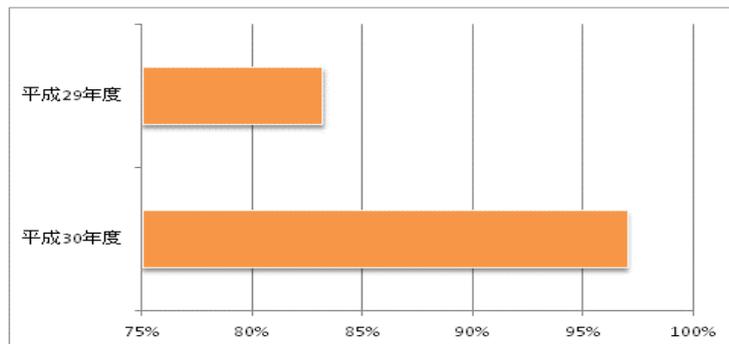
2. 公演企画制作費（事業費）

半年間の休館により影響を受けたのが公演企画制作費である。主たる財源のひとつである貸し館収入（受取使用料）は休館により前年度より大幅減となった。収入に連動させるのであれば公演企画制作費も同じ比率で減額しなくてはならない。しかし同率カットは、いずみホールに求められているミッション「地域とのつながり」、「世界とのドア」の実施に支障が生じる懸念があった。そこで平成30年度の公演企画制作費は前年度比60%を維持させ、既述のとおり、半年間に公演開催を集中させてミッションを果たす公演を重点的に配分した。同時にチケット営業を強化すべく営業担当者を増員した。その結果、チケット売り上げは予算との比率で前年度を越え、事業に対する公的団体、民間団体からの助成金も例年並みに獲得でき、収入減が必至となる改修時期を事業のクオリティを落とすことなく乗り切った。決算もほぼ予算どおりとなった。

いずみホールフレンズ
 在籍推移表
 平成30年4月～9月
 休館による変動あり。



主催公演チケット
 売り上げ対予算比



【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

平成30年度主催公演事業は平成30年2月に逝去した故・礒山雅音楽ディレクターが主導した企画が中心であった。バロック音楽の最新の潮流を紹介する「古楽最前線」では、演奏団体を独自招聘した「聖母マリアの夕べの祈り」企画が「空前絶後」と高評価（藤野一夫・11月27日経新聞）、年末の「2018年関西文化界を振り返る」（12月28日同紙）でも取り上げられた。オール日本人演奏家で制作したオペラ「ポップエアの戴冠」も「興味深い好演」（嶋田邦雄「音楽の友」平成31年3月号）と好評だった。28年弱にわたり芸術的責任を担ってきた礒山雅氏の功績に対しては、平成31年4月にミュージックペンクラブ音楽賞が贈られた。



「ポップエアの戴冠」

以下全て撮影：樋川智昭

「ランチタイム・コンサート」のナビゲートを平成30年より担当した岡田暁生京都大学教授はジャンルにこだわらずに演奏家を選定すると構想を発表した。年2回の「バッハ・オルガン作品全曲演奏会」の芸術監督クリストフ・ヴォルフハーバード大学教授は記者会見でシリーズ終了に合わせ、続編の「アンコール企画」を発表した。このように研究と実演を両輪とするいずみホールの独自モデルは健在である。

ホールの看板楽器であるオルガンは全館改修工事にあわせオーバーホールが行われ、それを新聞、テレビが報道し、視聴者のオルガンへの関心を高めた。

作曲家・西村朗を音楽監督に擁するホール専属楽団いずみシンフォニエッタ大阪は、平成29年度に定期演奏会が通算40回を迎え、日経新聞（大阪版）に「現代音楽 大阪から世界へ」という特集記事が掲載された（平成30年2月2日夕刊）。平成30年度は休館のため定期演奏会開催は1回のみであったが、大阪出身のヴァイオリン奏者神尾真由子を招き、楽団の実力をみこんだ神尾の要望で難曲リゲティの協奏曲に取り組み、「ホールの響きを生かす好演」（能登原由美、「音楽の友」5月号）と評された。



いずみシンフォニエッタ大阪第41回



いずみ子どもカレッジ（打楽器）

普及啓発事業では、同団のメンバーが小学生と打楽器ワークショップを行い「地元とのつながり」に貢献、また、音楽監督と団員がタッグを組んで500円という安価で啓蒙企画を提供した。

人材養成事業では大阪アーツカウンシルの協力を得てアートマネジメント講座を開催。顧客形成をテーマに「情報誌選手権」「アンケート作りワークショップ」など実践的な内容に絞った内容が受講者調査でも好評であった。

運営責任者の人的資源活用としては、事業制作・広報を統括する森岡めぐみが音楽芸術マネジメント学会で現場レポートを発表、文化庁・公益社団法人日本芸能実演家団体協議会共催「第9回実演芸術連携フォーラム」のパネルディスカッションの司会進行を担当し、事業で得た知見を提供した。

以上のように、平成30年度の事業はいずみホール独自の資源を活用し、文化拠点として発揮した創造性が広く認められたと考える。



地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

公演事業No. 3,4で招聘した古楽器アンサンブル、カペラ・デ・ラ・トーレは、いずみホールの協力のもと、大阪府立夕陽丘高等学校音楽科で2日間にわたりワークショップを行った。その様様が大阪日日新聞にレポートされている（11月15日）。また同アンサンブルは神戸大学アートマネジメント研究会の学生たちが企画、実施する「子どものためのコンサート」にも出演し、教材協力ともなった。公演事業No. 4出演のRIAS室内合唱団は、大阪フィルハーモニー合唱団でワークショップを行った。このように、世界的奏者の演奏鑑賞の場を提供しただけではなく、青少年やアマチュアが演奏家と交流したいというニーズにも応えた。また「古楽最前線」企画の舞台裏を、職員・森岡めぐみが大阪日日新聞に3回連載のエッセイで紹介、「音楽の友」平成31年4月号の「ホール主催公演を考える」特集では職員の梅垣香織と北嶋優が誌面で企画を説明し、ホールからの発信も強化した。同特集の識者の座談会ではいずみホールの活動について「頑張っているという印象がある」（奥田佳道氏）というご意見を頂いた。



公演事業No.3 レクチャーコンサート
出演：カペラ・デ・ラ・トーレ
撮影：樋川智昭（右写真も）

公演事業No.4 「聖母マリアの夕べの祈り」出演：RIAS室内合唱団

RIAS室内合唱団による、大阪
フィルハーモニー合唱団ワーク
ショップ(2018.11.3)
協力：いずみホール



カペラ・デ・ラ・トーレによる夕陽丘高校音楽科
ワークショップ(2018.11.9,10)
協力：いずみホール
写真提供：大阪ドイツ文化センター

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

持続的な運営を経済的に支えるのが収入である。当ホールの事業の主たる収入源は主催公演事業のチケット収入と貸館公演事業の貸館収入であり、両者を安定的に得るために、全部署から担当を集め月例会議を開催、予算遂行状況をチェック、対策協議をしている。経済的基盤としては、設置者である住友生命保険相互会社から財団に毎年385百万円（いずみホール事業以外の事業分も含む）の寄付がある。それに加え収益強化のために、資金調達活動を平成16年度から積極的に展開した。従来のスポンサー枠に加え小口の「サポーター」枠を新設し、スタート時の平成20年度と比べ平成30年度の同枠の協賛額は倍増している。公的補助金獲得にも挑戦し、平成18年度以降ほぼ安定して年額約200万円から300万円を頂いている。近年は地元自治体からの助成金にも応募、採択して頂いた。これら資金調達活動の動力源になっているのは、主催公演事業が積み重ねてきた高品質の企画への信頼と支持であろう。信頼と支持の高さは、強固な会員組織に現れている。いずみホールフレンズ会員は、開館以来30年間、約3000名以上を堅持、平成30年度の主催公演チケット購入金額の会員占有率は45%ともなっている。また、経済的基盤と並び重要なマンパワーの面では、熟練した人材の整備ができています。職員22名中18名が正規雇用であり、業務に精通し、長期でキャリアパスを築ける仕組みになっている。演奏会の接遇要員（レセプションリスト）もホールが直接採用、養成、管理をしており、高いサービス力で施設の魅力を高めてきた。また当ホールは民間施設ではあるが公立文化施設協会に準会員として所属し、劇場・音楽堂等間のネットワークにも参加して、運営上の最新情報を入手、更新している。平成30年度に半年間をかけてホールの大規模改修（耐震補強、利便性向上）を行い、引き続き安定した運営に向けて財源、人材、情報、施設面で万全の体制をとっている。

ミッションの実施／事業の持続的発展（概念図）

